

(別紙1)

総括研究報告書

課題番号：2019C-14

課題名：首都圏に勤務する看護師の短時間勤務看護師との協働意識とバーンアウトの関連

主任研究者 (所属施設) 国立成育医療研究センター
(所属・職名 氏名) 看護部 6 西病棟 看護師長 平本康子

(研究成果の要約) 高度専門病院 1 施設に勤務する女性看護師の、短時間勤務看護師との協働意識および施設の専門性とバーンアウトとの関連を明らかにするために、看護師 595 名を対象に、個人要因、職場環境要因、施設の専門性、バーンアウト尺度 (MBI-HSS)、短時間勤務看護師との協働意識尺度の自記式質問紙調査を行った。女性看護師 181 名の重回帰分析の結果、短時間勤務看護師との協働経験や短時間勤務の経験がバーンアウトと関連していた。施設の専門性では「患者への細かい配慮」に疲れる者はバーンアウトしやすく、「患者の家族とは良い関係を築ける」者はバーンアウトしにくかった。「超過勤務が負担」な者はバーンアウトしやすく、「この病院で働くことに誇りを持っている」「給与は仕事量に見合っている」「他のスタッフに自分の意見を伝えられる」「仕事と生活が両立出来ている」者はバーンアウトしにくいことが明らかになった。

1. 研究目的

バーンアウトは、看護師などの対人サービス専門職者における職業的ストレスとして研究され、理論化されるようになった概念である。バーンアウトすることにより、医療事故発生や看護師自身の健康に影響することが明らかになっている。

日本では 2017 年に「育児・介護休業法」が改正され、短時間勤務看護師が増加傾向にある。看護師が短時間勤務などの両立支援制度を利用しながら、就業継続できることは望ましいことであると考えられる。その一方でフルタイム勤務看護師は、短時間勤務看護師の優遇のために夜勤回数や日々の業務において身体的、精神的な負担がかかっている実情がある。今後、仕事と家庭生活の両立支援制度を利用する者が増えるほど、フルタイム勤務看護師の業務に関する不公平感が高まり、バーンアウトが増えるのではないかと考えた。

そこで本研究により、東京都内の高度専

門病院に勤務する看護師の、短時間勤務看護師との協働意識および施設の専門性とバーンアウトとの関連を明らかにしたい。

2. 研究組織

研究者	所属施設
平本康子	国立成育医療研究センター
鈴木英子	国際医療福祉大学

3. 研究成果

1) 短時間勤務看護師との協働経験や短時間勤務の経験がバーンアウトと関連する。

2) 施設の専門性である「患者への細かい配慮」に疲れる者はバーンアウトしやすく、「患者の家族とは良い関係を築ける」者はバーンアウトしにくい。

3) 「超過勤務が負担である」者はバーンアウトしやすく、「この病院で働くことに誇りを持っている」者、「給与は仕事量に見合っていると思う」者、「短時間勤務の経験」がある者、「短時間勤務看護師と

の協働経験」がある者、「他のスタッフに自分の意見を伝えられる」者、「仕事と生活が両立出来ていると感じる」者はバーンアウトしにくいことが明らかになった。

4. 研究内容の倫理面への配慮

本研究は、国立成育医療研究センター倫理審査委員会の承認と国際医療福祉大学研究倫理審査委員会の承認（2019年3月15日 承認番号 18-Ig-137）を得た。